

白川村 国保白川診療所



所長診察風景

世界遺産の村人を支える診療所

白川村にある 2つの診療所

国保白川診療所があります大野郡白川村は、岐阜県の西北部に位置し北は富山県と連なり、西は白山山系を経て石川県と境界をなしています。急峻な山々に囲まれ、96%が山林となっている典型的な農山村です。その中でも世界遺産白川郷があります白川地区には、東海北陸自動車道全線開通、世界遺産登録を機に日本だけでなく、世界中より観光客が訪れ、平均すると毎日5000人（半分は外国人）の人たちでにぎわっています。

当村は白川地区と、そこから南に



後列左から
大塚主任(事務) 吉山主任(看護師) 鈴木主査(看護師)
前列左から
和田課長補佐(看護師) 黒川所長(医師) 水野事務長(事務)

連携してみんなで 支え合う仕組み

前述させていただいていますが、平成27年度より岐阜県の県北西部地区にあります郡上市、高山市、白川村の2市1村による広域医療連携体制(県北西部地区医療センター)に所属させていただいています。それ以前は、県派遣医師1人が10年間にわたり、当村の地域医療を担っていました。平成27年度より白川、平瀬診療所には週4日(主に午後、県派遣医師研修日は終日)、白鳥病院から医師を派遣していただき、午後は2人体制で診療を行っています。私

自身、平成27年度に白鳥病院に在籍し、週2回白川、平瀬診療所へ代診に行かせていただいております。赴任前より白川村の医療に1年を通して関わる機会をいただいたおかげで、診療所スタッフ、村役場、特別養護老人ホーム等との連携も赴任当初から取りやすく、患者さんの申し送りなどに関しても、前任医師との外来レビュー等を通じて1年間かけて行ってきたため、前任医師からの移行も比較的スムーズに行う事ができました。また往診、その他保健福祉業務にあたる時間確保のため、制限せざるを得なかった午後の診療時間の延長が可能になりましたし、密に連



診察風景

携をとっている後方病院があることで、特別養護老人ホーム入所者の入院や、介護レスパイト目的の一時的な入院を依頼する事が容易となり、退院後の在宅療養復帰支援も行いやすくなりました。

日々の診療においては単なる代診と異なり、村の医療を支える医師群を目指すため、一定のシフトの中で継続して代診医が診察を行い、外来後のレビュー等を通じて受診患者、往診患者の情報を定期的に交換する事で、どの医師に受診しても継続して診療にあたるシステムとなっており、カンファレンスは自身の診療を振り返り、診療の質の維持に努める場ともなっています。赴任者1人の診療所ではありますが、一人で支



診療所全景

所長の こぼれ話

所長 黒川大祐



専門分野
一般内科

着任当時の思い出

初の僻地赴任で、長年地域を支えられた先生の後の赴任ということもあり、不安と緊張の中着任しました。新築の医師住宅にもかかわらず窓には今まで見たことがないほど、大量のカメシが住んでおり、相当な山奥にきたのだなと感じました。(でも、住めばそうでもないです。)

休日の過ごし方、趣味

9カ月の息子と出かける事が多いです。

村民の理解を進め、 課題に取り組む

センター化にて医師の確保、医師への診療支援が充実してきていますが、今後のセンター維持に向けて、村民へのセンター化への理解を進め

る場を引き続き設定していく予定です。また看護師、介護士、ケアマネジャーなどの研修や、専門職の休職者の復帰支援などもセンター内で行い、スタッフの維持、確保に努めていきたいと思っています。そして高齢化に伴い増加する医療費、介護保険料も課題となっており、介護予防や介護保険外のサービスの創設についても住民と共に考える場を設定し、今後いくつかの具体的な対策を見出し、せればと考えています。